

令和4年度スポーツ庁委託事業

「障害者スポーツ推進プロジェクト（特別支援学校運動・スポーツ活動促進等事業）」成果報告書

令和5年3月

国立大学法人弘前大学

本報告書は、スポーツ庁の委託事業として、弘前大学が実施した令和4年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（特別支援学校運動・スポーツ活動促進事業）」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

目 次

1	事業の目的	3 頁
2	実施体制と事業イメージ	4 頁
3	活動報告	5 頁
4	事業成果と課題	5 頁
5	次年度の方向性	13 頁
6	実行委員会名簿	14 頁

1 事業の目的

6年間の地域と連携した、インクルーシブなスポーツ活動を展開する中で構築された「弘前大学モデル」は、**定期的・継続的な活動の実施**が大きな課題として残されている。この課題を解決するためには、**地域との連携の強化、地域の人材活用**が上述の活動の継続に大きく関与すると考える。

そこで令和4年度は、「弘前大学モデル」の構築において、**障害児・者が生涯にわたってスポーツ活動に参加できるようにするための基盤づくり**として、次の二つの取組を進める。

まず一つ目は、スポーツ施策の実施体制上の課題を解決するために、**各団体の役割分担を明確にした実行委員会組織の再構成**を行い、その中で地域人材や地域施設の活用を推進する。次に二つ目として、生涯を通してスポーツ活動を行うことを視野に入れ、**学童期から青年期へのスポーツ活動の繋ぎを強化**する。具体的には、これまでスポーツへの興味関心を広げることを目的に実施してきた「わいわいスポーツクラブ」の中に、スポーツ技能や競技力を高める「**がちスポクラブ**」を設定し、**地域の特別支援学校の生徒を対象とした定期的なスポーツ活動を展開**する。併せて、本事業では、毎年開催しているフライングディスク大会を、オンライン大会として全国の特別支援学校に参加を呼びかけ、スポーツ交流地域の拡大を図る。また、以上の取組を円滑に実施するため、ICT機器の接続に係わる専門家にサポートを依頼する。

このような取組により、地域の中に、生涯を通してスポーツ活動を行うことができるシステムが構築されるとともに、オンラインを活用したスポーツ交流を実施することにより、遠隔地から主催地の会場へ移動する負担がなくなり、全国にスポーツの交流範囲が広がることをねらいとしている。

本事業の取組は、スポーツ交流の相乗効果から、障害児・者及び彼らを取り巻く全ての人々の自分らしく生きる活力を高め、インクルーシブスポーツを通じた共生社会の実現にも繋がるものとする。また、**地域人材や施設を活用した定期的なスポーツ活動は、2025年の地域部活動実施に向けた実践モデル**として実施する。

令和3年度までの課題を受けて

～定期的・継続的な活動の実施～

学童期から青年期への繋ぎの連携

わいわいスポーツクラブとユニバーサルスポーツクラブの連携強化

定期的な活動ができるシステムの構築

地域人材、地域施設の活用

地域の中でのスポーツ活動の展開

各組織の役割分担の明確化

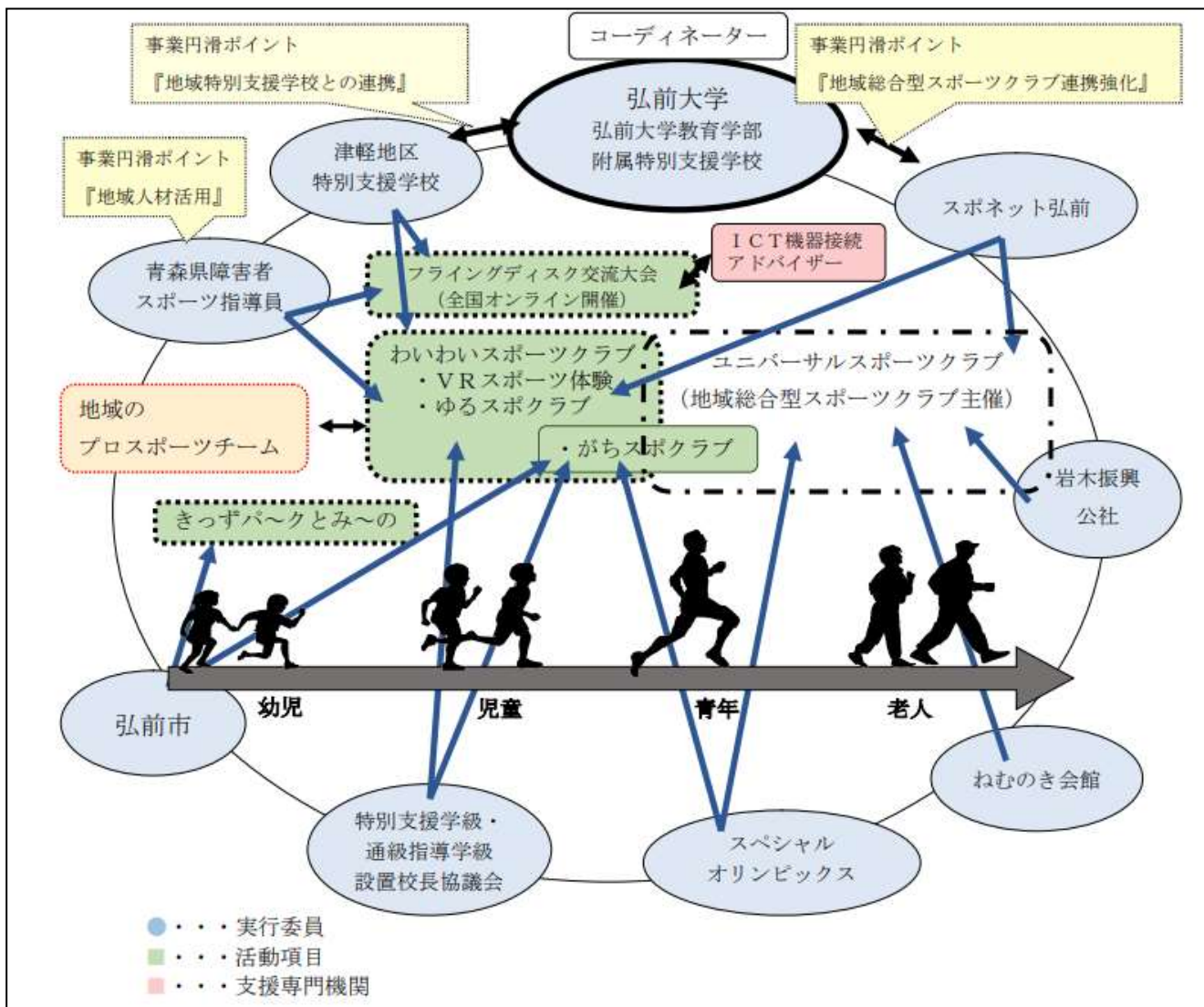
実行委員会の機能の活用

組織図を作成し、円滑な連携体制構築

2025年地域部活動実施に向けた実践モデル

2 実施体制と事業イメージ

【実施体制】



【事業イメージ】

4 活動報告

実行委員会

- ア 日 時 第1回目 令和4年6月28日(火) 13:30~16:00
第2回目 令和5年1月19日(木) 13:30~16:00
- イ 会 場 第1回目 弘前プラザホテル
第2回目 弘前プラザホテル
- ウ 構成委員 青森県障害者スポーツ指導員会、青森県身体障害者福祉センター、弘前市福祉部障がい福祉課、弘前市健康こども部スポーツ振興課、スペシャルオリンピックス日本・青森支部、スポネット弘前、岩木振興公社、青森県特別支援学級・通級指導学級設置学校長協議会弘前支部、津軽地区特別支援学校、弘前大学教育学部及び附属特別支援学校(事務局)
- エ 内 容 第1回目
・令和4年度スポーツ庁委託事業「障害者スポーツ推進プロジェクト」について
・今年度の活動内容、参加対象、役割分担について
第2回目
・令和4年度スポーツ庁委託事業「障害者スポーツ推進プロジェクト」の活動報告
・次年度の方向性について 等

オ 当日の様子



【実行委員によるVRゴーグル体験】

弘前大学モデル

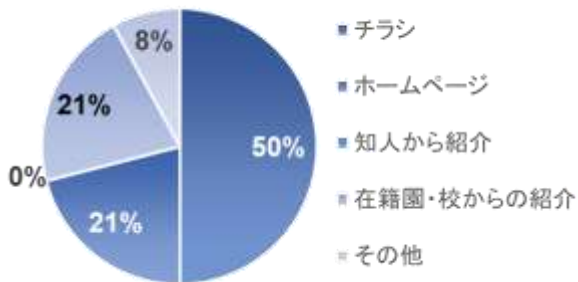
『きっずパークとみへの』

- ア 期 日 1回目 令和4年 7月27日(水) ※中止
2回目 令和4年 8月 6日(土) ※中止
3回目 令和4年10月22日(土)
4回目 令和4年11月23日(水)
5回目 令和4年12月26日(月)
6回目 令和5年 1月13日(金) ※中止
7回目 令和5年 1月14日(土)
8回目 令和5年 2月18日(土)

イ 会 場	1回目	弘前大学教育学部附属特別支援学校 第一体育館 ※中止
	2回目	ヒロスクエア (ショッピングモール&公共施設) ※中止
	3回目	弘前市民体育館
	4回目	弘前市民体育館
	5回目	弘前大学教育学部附属特別支援学校 第一体育館
	6回目	弘前大学教育学部附属特別支援学校 第一体育館 ※中止
	7回目	弘前大学教育学部附属特別支援学校 第一体育館
	8回目	ヒロスクエア (ショッピングモール&公共施設)
ウ 参 加 者	3回目	4名
	4回目	21名
	5回目	6名
	7回目	16名
	8回目	15名

エ 参加者アンケート結果 (新規参加者14名対象)

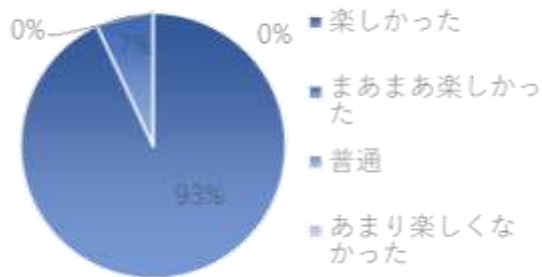
《来場のきっかけ》



《参加理由》



《参加してみたの感想》



【自由記述】

- ・なかなかない機会に感謝している。
- ・予想以上の遊具に子供も楽しそう。
- ・相談ができてありがたい。

オ 当日の様子





『わいわいスポーツクラブ～（VRスポーツ）』

- | | | |
|---------|--|-------------------------|
| ア 期 日 | 1日目 | 令和5年1月27日（金） |
| | 2日目 | 令和5年1月30日（月） |
| | 3回目 | 令和5年2月11日（土） |
| イ 会 場 | 1回目 | 県立弘前実業高等学校 |
| | 2回目 | 大鱈温泉スキー場 |
| | 3回目 | 弘前市身体障害者福祉体育館 |
| ウ 参 加 者 | 1回目 | 県立弘前実業高等学校スポーツ科 2年生 10名 |
| | 2回目 | スキー教室見学者 6名 |
| | 3回目 | がちスポ参加者 8名 |
| エ 参加者の声 | <ul style="list-style-type: none"> ・終わった後、現実か仮想空間か分からなくなったが楽しかった ・普段は対戦できない選手と本気で対戦することができた ・僕も強くて剣道ができたと思った。 ・もっと練習して、本当に対戦してみたい ・臨場感あふれ、楽しく活動できるツールだと思う。 ・体験という形で、他にもいろいろな体験ができそうだった。 ・普段できない経験が手軽にできるのでとてもよいと思う。 | |

オ 当日の様子



【剣道 VR 映像①】



【剣道 VR 映像②】



【スキー事前学習】＊スキー場滑走の前に映像を見てイメージを描いた。

『わいわいスポーツクラブ～（ゆるスポ）』

- | | | |
|----------------|---|-------------------------------|
| ア 期 日 | 1回目 | 令和4年10月22日（土） |
| | 2回目 | 令和4年11月23日（水） |
| | 3回目 | 令和5年 2月18日（土） ※中止 |
| イ 会 場 | 1回目 | 弘前市民体育館 |
| | 2回目 | 弘前市民体育館 |
| | 3回目 | 弘前大学教育学部附属特別支援学校 第二体育館
※中止 |
| ウ 参 加 者 | 1回目 | 6名 |
| | 2回目 | 9名 |
| エ 実施種目
（講師） | 1回目 | サッカー（ブランデュー弘前） |
| | 2回目 | ラグビー（さくらオーバルズ） |
| オ 参加者の声 | <ul style="list-style-type: none"> ・とてもいい雰囲気ですスポーツを行っていて、子供も楽しそうでした。 ・コロナ禍だけできて嬉しい。ずっと待っていました。 ・自分の子がラグビーできると思わなかった。嬉しい。 ・もっと多くの人に参加してほしい。 ・来年もやってほしいです。 | |
| カ 当日の様子 | | |



【サッカー教室】



【サッカー教室】



【ラグビー教室】

『わいわいスポーツクラブ～ (がちスポ) 』

ア	期 日 種 目	1回目	令和4年10月 8日 (土)	バスケットボール
		2回目	令和4年10月29日 (土)	フットソフトボール
		3回目	令和4年11月12日 (土)	バスケットボール
		4回目	令和4年11月20日 (日)	バスケットボール
		5回目	令和4年12月24日 (土)	バスケットボール
		6回目	令和5年 1月14日 (土)	フットソフトボール
		7回目	令和5年 1月21日 (土)	バスケットボール
		8回目	令和5年 2月11日 (土)	フットソフトボール
		9回目	令和5年 2月25日 (土)	フットソフトボール
イ	会 場	1回目	弘前市身体障害者福祉センター体育館	
		2回目	弘前市身体障害者福祉センター体育館	
		3回目	弘前市身体障害者福祉センター体育館	
		4回目	弘前市身体障害者福祉センター体育館	
		5回目	弘前市身体障害者福祉センター体育館	
		6回目	弘前市身体障害者福祉センター体育館	
		7回目	弘前市身体障害者福祉センター体育館	
		8回目	弘前市身体障害者福祉センター体育館	
		9回目	弘前市身体障害者福祉センター体育館	

ウ 参加者 (指導者)	1回目	5名	(スポネット弘前：鹿内 他)
	2回目	8名	(障害者スポーツ指導員：佐藤 他)
	3回目	7名	(スポネット弘前：鹿内 他)
	4回目	7名	(スポネット弘前：鹿内 他)
	5回目	9名	(スポネット弘前：鹿内 他)
	6回目	7名	(障害者スポーツ指導員：佐藤 他)
	7回目	8名	(スポネット弘前：鹿内 他)
	8回目	8名	(障害者スポーツ指導員：佐藤 他)
	9回目	9名	(障害者スポーツ指導員：佐藤 他)

- エ 参加者の声
- ・定期的なスポーツ活動ができて、休日の過ごし方が変わった。
 - ・専門的なことを指導してもらえるのでありがたい。
 - ・同じ年齢の人で行っているのので、居心地がいいみたい。
 - ・継続してほしい。
 - ・もっとほかの学校からも集まればいいと思う。

オ 当日の様子



- カ 次年度に向けて
- ・運営について、民間スポーツクラブに移行してもよいと思うが、現在の雰囲気を変えないでほしい。
 - ・月謝については、一般のスポーツクラブのような金額であれば、月謝を払ってでも参加したい。
 - ・子供を理解している学校の先生がいると安心できる。

第6回フライングディスク交流大会～弘大杯～

東北3県をICT機器で繋ぎ、オンライン競技を実施した。

- ア 日 時 令和4年12月10日(土) 9:00～11:50
- イ 会 場 弘前大学教育学部附属特別支援学校 第二体育館(本会場)
福島県立西郷支援学校(サテライト1会場)
仙台市宮城野障害者福祉センター(サテライト3会場)
- ウ 参加者 選手37名(青森県17名、福島県19名、宮城県 1名)
- エ 日 程 9:00～ 9:10 受付
9:10～ 9:30 開会式
9:30～ 9:55 講習会
10:00～11:40 競技
11:40～11:50 閉会式
- オ 競技種目 フライングディスク アクセラシー競技
- カ 参加者の声 【福島県の声】・今年もオンラインで大会ができて嬉しい。
・オンライン大会の日を楽しみにしていた。
・福島県の各チームが集まる機会となる大会である。
・継続していきたい。

- 【宮城県の声】・集団が苦手な人でも、気軽に参加できると感じた。
・コロナで参加できなかったことがとても残念だった。
・来年は、参加したい。
・この機会を継続してほしい。

キ 当日の様子



5 事業成果と課題

令和3年度までの課題を受けて

～定期的・継続的な活動の実施～

学童期から青年期への繋ぎの連携

わいわいスポーツクラブとユニバーサルスポーツクラブの連携強化

定期的な活動ができるシステムの構築

地域人材，地域施設の活用

地域の中でのスポーツ活動の展開

各組織の役割分担の明確化

実行委員会の機能の活用

組織図を作成し，円滑な連携体制構築



事業成果

◎『がちスポ』の実施に伴い、定期的な活動の場が構築された。

◎次年度以降、地域スポーツクラブ主体へ移行できる可能性が見えた。

⇒地域部活動の構築

◎地域スポーツクラブ、地域プロスポーツチームと連携した開催ができた。

◎弘前市との連携が定着してきた。

⇒地域人材活用のシステム構築

◎役割分担は整理できつつある。

⇒次年度以降、継続実施のための組織構築

『弘前大学モデル』を通して、3つの成果が得られた。

①地域部活動の構築

②地域人材活用のシステム構築

③次年度以降、継続実施のための組織構築

事業課題

- ◎スポーツ実施率は（本校20％）だった。コロナ禍での活動自粛の影響があり、難しい部分があった。
- ◎大会や教室等の開催地までの交通手段、スポーツをする場所への移動手段、遠方からの参加
- ◎始めるきっかけ作り
- ◎継続してスポーツができる場を提供していくことが大切（実施機会の確保、場所、頻度、指導者）
- ◎安心感（安全面、アクセスのしやすさ、居心地の良さ）
- ◎指導者の意識・考え方。障害者スポーツの場合「スポーツをする」ことだけでなく、スポーツをする場に行ったり、仲間たちと切磋琢磨したりするような「スポーツを通して」の経験を重ねるといった側面が大きいことの共通理解。

6 次年度の方向性

活動⇒継続実施
 主催団体⇒整理し地域団体へ移行する活動あり
 実行委員会⇒情報共有のため、名称を変更して継続

活動	主催(共催)	目的	連携団体	課題解決方針 実行委員の意見を 受けて
きッズパーク とみ～の	附属特別支援学校 弘前市	早期療育 幼児期の身体運 動の場	弘大特別支援教育	地域に開かれた 定期的な活動
フライングディス ク交流大会 ～弘大杯～	附属特別支援学校 弘前大学 県障害者フライング ディスク協会	スポーツ交流 共生社会の実現	特別支援学校 特別支援学級設置校 ねむのき会館	継続した開催 共生社会の構築
ユニバー サルスポ ーツクラ ブ	ゆる スポ	地域総合型スポ ーツクラブ スポネット弘前	社会参加 インクルーシブ 共生社会の実現	誰もが参加でき る定期的な運動 の場 「スポーツをと おして」生活経験 の拡大
	がち スポ	地域総合型スポ ーツクラブ スポネット弘前	競技力向上 社会参加	競技力の向上 定期的な運動の 実施 ⇒地域部活動

7 実行委員会名簿

	氏 名	所 属	役 職
1	福 沢 和 彦	青森県障害者スポーツ指導員会	会 長
2	竹 内 雅 宣	青森県身体障害者福祉センター	主 事
3	前 田 修	弘前市福祉部障がい福祉課	課長補佐
4	三 上 隆 志	弘前市スポーツ振興課	総括主査
5	谷 地 藍	弘前市スポーツ振興課	主 事
6	三 國 美 香	スペシャルオリンピックス日本・青森支部 (明の星短期大学)	評 議 員
7	鹿 内 葵	総合型地域スポーツクラブ スポネット弘前	理 事 長
8	板 垣 雅 之	指定管理者（一財）岩木振興公社	業務主任
9	菊 池 論	青森県特別支援学級・通級指導学級設置校長協議会 弘前支部（弘前市立松原小学校 校長）	支 部 長
10	福 士 裕 也	青森県立弘前第一養護学校	教 諭
11	三 上 泰 希	青森県立弘前第二養護学校	教 諭
12	保 村 崇 有	青森県立弘前聾学校	教 諭
13	渡 邊 匠 哉	青森県立森田養護学校	教 諭
14	長 尾 美 保	青森県立黒石養護学校	教 諭
15	渋 川 華 綸	青森県立浪岡養護学校	教 諭
16	福 島 裕 敏	弘前大学教育学部	学 部 長
17	戸 塚 学	弘前大学教育学部（附属教育実践総合センター長）	教 授
18	増 田 貴 人	弘前大学教育学部	教 授
19	本 間 正 行	弘前大学教育学部	学部長講師
20	飯 田 有知子	弘前大学教育学部	事 務 長
21	小 野 賢	弘前大学教育学部	事務長補佐
22	川 村 泰 弘	弘前大学教育学部附属特別支援学校	校 長
23	小 沼 順 子	弘前大学教育学部附属特別支援学校	教 頭
24	木 村 亮	弘前大学教育学部附属特別支援学校	教 諭
25	對 馬 大 成	弘前大学教育学部附属特別支援学校	教 諭
26	加賀谷 紀	弘前大学教育学部附属特別支援学校	教 諭
27	小石川 菜生子	弘前大学教育学部附属特別支援学校	事務主任
28	中 嶋 実 樹	弘前大学教育学部附属特別支援学校	教 諭

